

令和3年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立北小学校
-----	----------

○目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	本年度の重点目標
教育目標 未来に向かって、一人ひとりが輝く北っ子の育成 ～ 進んで学び 人とつながり 挑戦し続ける子 ～	○主体的で対話的な学びのある授業と特別支援活動の充実を図ります ○児童との絆づくり・居場所づくりを進め、安全・安心な学校を推進します ○地域と協働し、地域とともにある学校づくりを推進します

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	組織運営	働きがいのある学校を目指し、全職員が一つとなって課題解決に当たる。職員同士が相談しやすい雰囲気をつくるとともに、北小のチーム力で業務改善を進めていく。	B	コロナ禍の中、多くの教育課題はあるが、教職員は同じ方向を向いて子どもたちの健全な育成のために力を合わせて取り組んでいる。スラップアンドマイナーチェンジとして、業務改善を行い、教職員の仕事の効率化・スリム化を図る。ワークシェアリングを行い、互いに声掛け合って負担軽減し、担任が児童と共有する時間を確保している。タイムマネジメントを意識し、心身ともに健康で児童に向き合えるようにしている。
	生徒指導	問題行動（いじめ・不登校等）の未然防止、早期発見、早期対応を図る。児童の気持ちに寄り添い、居場所がある学級づくりを大事にして、自尊感情や自己有用感が高まる取組を全職員で推進する。	B	今年度も昨年度に引き続き、学校組織の体制を見直しながら、不登校対応、特別な支援を必要とする児童の対応などを行っている。教員が一人で抱え込まず、チームで子どもたちを見て援助するとともに関係機関との連携を図っている。更に、LGBTs やコロナ差別など、様々な課題に対する研修を行い、児童や保護者理解に努めている。特に、問題が発生した時は即対応し、情報共有する中で、解決策を検討し、解決に向けた取組を行っている。
教育課程	指導方法の工夫改善	昨年度に引き続き、「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指すための授業方法の工夫改善を行う。主体的な児童の育成、対話を取り入れ、児童同士つながりのある授業を目指す。	B	校内授業研究を行い、授業改善を図る。事後研修会では講師を招聘し、公開授業が一人ひとりの授業改善へとつながるようにしている。また、「授業参観週間」を設定し、普段から授業を参観する取り組みを通して、お互いの指導力を高め、自らの授業づくりに役立てている。主体的な児童の育成に向け、引き続き児童会活動や特別活動の充実を図っている。授業では対話を位置づけ、話し合いを通して、児童同士の人間関係を構築し、良好な関係が保てるようにしている。
	総合的な学習の時間	地域の教育資源（人材・自然・施設等）を活用した学習を行う。地域学習を通して、地域に誇りを持ち、地域が大好きな子を育成する。地域の教育資源の開発も進めていく。	A	学校支援コーディネーターと連携し、地域の「ひと」「もの」「こと」を教材とした学習を多く取り入れ、地域学習を進めている。特に、ゲストティーチャーとの関わりはどの学年でも計画し推進している。地域と連携した体験活動を通して、地域への愛着を育むことができています。また地域教育資源の開発として、夏休みに教員の地域史跡研修を行った。講師に、氷上郷土史研究会の会長足立様にお世話になった。
課題教育	情報教育	ICTを活用した授業実践やプログラミング教育を行い、児童の情報活用能力や学習意欲の向上を図る。情報モラルの指導を行い、メディアを適切に活用できるようにする。	A	SKYMENUを活用した授業実践が行えるよう、職員研修を行った。6年間を見通したICT活用実践力・プログラミング教育の指導計画を立て、系統的に指導にあたっている。家庭と連携して児童自らが適切にタブレットを使えるよう、家庭でのタブレット活用ルールを作成した。また、タブレット学習日を設定している。4～6年生を対象に情報モラルに関する講演会を実施した。

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
・職員室の雰囲気がよく、みんなで子どもに関わっていることがよく分かった。 ・先生たちの表情もよく、放課後も子どもたちとよく遊んでいる光景をみる。 ・全員の帰宅時刻が早くなっているわけではないことから達成状況はBが妥当である。
・地域では「こんにちは」や「ただいま」といったあいさつを子どもたちからしてくれる。 ・いじめの早期対応の成果により、深刻ないじめや長期化するいじめがないことが良い。 ・LGBTsなどの新しい課題に向けての取組も進んでいることで安心するが、まだまだ見えていない課題もあると思う。柔軟に対応していけるような体制をこれからも組んでいただきたい。 ・SNSやインターネット上のいじめがないか心配である。今後も、聞かせるごとに情報モラルなどの学習をしてもらいたい。
・学校評価の保護者アンケートから、9割以上の保護者が通わせたい学校であると答えていることは良かったが、1%の通わせたくないや答えている保護者のことが気になる。これからも、保護者に寄り添った学校であってほしい。 ・学力的なことも心配であるが、若手教員が増えているように感じるので授業改善は大切である。今後も引き続き、授業力や指導力を高めていける研修をお願いしたい。
・高学年の授業に入っているが、男女の仲がとても良く、みんなが助け合いながら授業をしている。その助け合いが素晴らしい。 ・コロナ禍の中、思うように学習も進まなかったと思うが、地域の教育資源をうまく活用し、取組を進められたことが良かった。 ・地域資源の研修に同行させてもらったがとても面白かった。これからも、どんどん開発を進めていただきたい。
・元気だけれども学校を休まないといけない子に対し、リモートでの授業が行われてる。これは昔では考えられないことで、素晴らしい取組だ。 ・ボランティアで授業に入ることが多いが、子どもたちも授業の中でタブレットをうまく使っている。それによって、学習意欲も高まっていることが素晴らしい。

※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育

※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

自己評価の実施方法についての評価


・児童・保護者・教員によるアンケートの実施や学校行事における保護者アンケートなどから、適切に評価されている。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

来年度に向けて、今年度の取組を継続しつつ、学校行事の充実や授業改善、生徒指導事案の早期対応、未然防止など、北小学校の子どもたちが、安心して登校し、わくわくするような活動を展開し、自ら動き、輝いていくような取組を進めていきたい。

今年度、様々な問題が起こったが、職員が力を合わせ一つのチームとなり最善を尽くして取り組んできたことが、地域や保護者の方々に伝わっていることが分かり、何よりも良かった。今後も子どもたち自身の力をさまざまな場や機会に十分発揮できるように、教職員や保護者、地域の方々と協力して取り組んでいきたい。

令和4年3月16日

学校名 丹波市立北小学校
校長名 黒田 睦美 

学校関係者評価のまとめ

・学校運営協議会の中で、委員の方々に評価していただいた。今年度の教育目標「未来に向かって一人ひとりが輝く北っ子の育成」を実現するべく取り組んできた教育活動に一定の評価を得ることができた。特に「地域とともにある学校づくり」に向けての取組について、賛同していただき高い評価を得ることができた。

・いじめや不登校についても、数人の児童に見られたが、それよりも早期対応や未然防止についての評価をいただくことができた。スクールボランティアとして授業に入ってもらい子どもたちと関わっていただいたことが関係者評価へとつながっていると感じた。